

# 教員採用試験受験者(新規学卒) の動向から

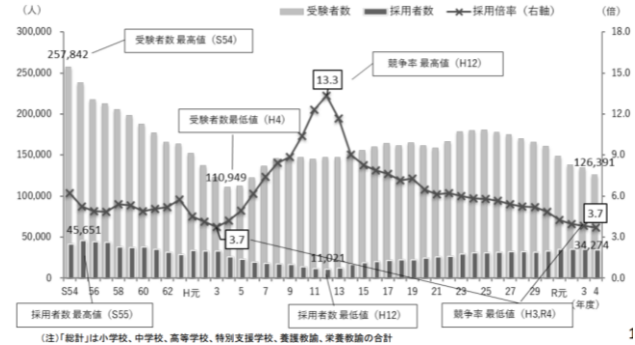
総合教育科学系  
平田 正吾



東京学芸大学  
Tokyo Gakugei University

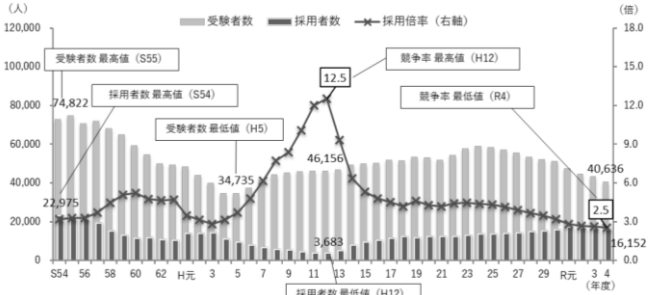
## 現状の把握

図1 総計 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



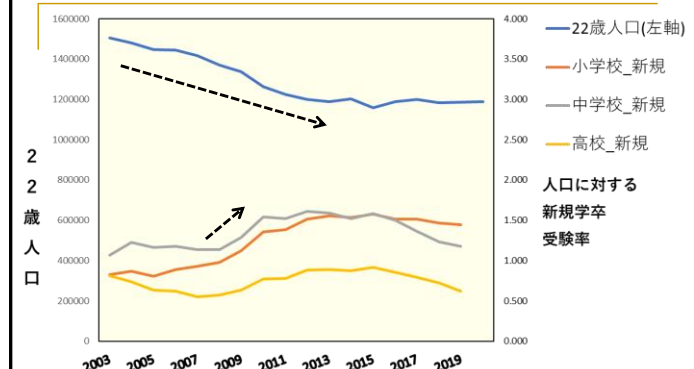
出典: 令和4年度(令和3年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施状況  
平成12年からの競争率の低下→魅力低下?

図2 小学校 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



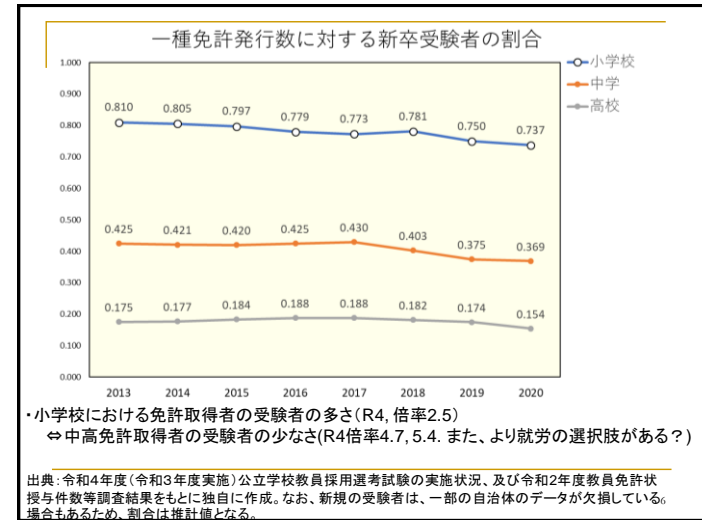
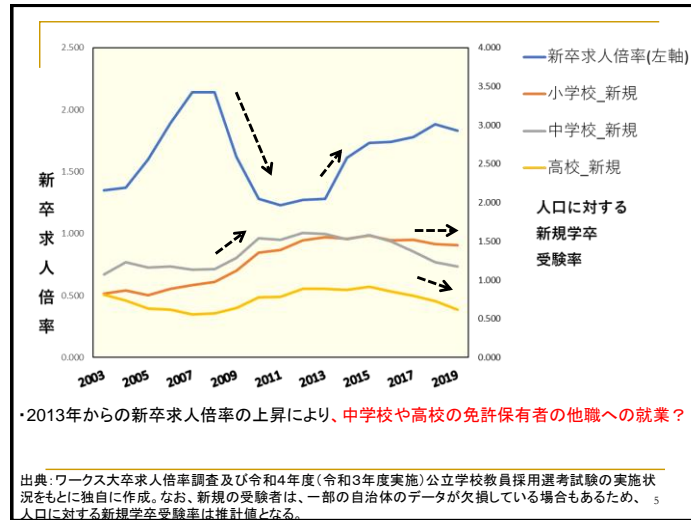
出典: 令和4年度(令和3年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施状況

- 1) 大量採用傾向の継続(定年退職, 小人数指導, 特別支援教育)
- 2) 教員採用選考試験に再チャレンジしてきた層が正規採用されることにより、既卒の受験者が減ってきていること  
(既卒者プールの減少・川上泰彦(2022)教育制度学研究, 29, 37-53)  
→新規受験者は、どのように変化してきたか? 人口動態との関連から



22歳人口の減少は明らかであるが、、、リーマンショック期以降における新規受験率の上昇  
小学校では受験率はほぼ横ばい、中学校・高校では近年低下傾向?  
要因の一つとして近年の雇用動向に注目

出典: 国勢調査及び令和4年度(令和3年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施状況をもとに独自に作成。なお、新規の受験者は、一部の自治体のデータが欠損している場合もあるため、人口に対する新規学卒受験率は推計値となる。



## まとめ

1) 22歳人口比で見るならば、  
小学校新卒受験者率は少なからず、維持されている。  
→ 定着率などについても検討  
→ 地域特性に応じた検討

2) 今後の人口動態や雇用状況を踏まえた  
教員需給の推計とは?